

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立宇和島東高等学校 全日制・定時制
学校番号 (42)

評価実施日	令和2年2月17日(月)		
委員	氏名	所属等	備考
	黒澤 寿美	学校評議員、環太平洋大学短期大学部 副学長	
	一色 敏徳	学校評議員、愛媛新聞社 南予支社長	
	佐々木信幸	学校評議員、伊予銀行 宇和島支店長	
	森藤 博明	学校評議員、三間町兼近自治会長	
	田中 繁幸	ジブラルタ生命保険株式会社 営業次長	
	石止伊佐美	宇和島市立城北中学校長	
	高田 哲也	P T A会長	
	芳谷 圭一	教育振興会長	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 生徒の自己実現</p> <p>ア 熟慮された教育方針や目標が掲げられており、それらを達成するための具体的な取組が実践されている。各項目には、高い目標設定がされているためC評価も見られるが、結果を分析し、改善することで、今後の指導に活かしてほしい。 家庭学習の習慣化は小・中・高の12年間の学びの中で確立させていく必要がある。</p> <p>イ 進路実現については、結果がすべて出そろっていない時期ではあるが、生徒の授業満足度やアンケート結果からも総じて良好であることがうかがえる。</p> <p>ウ キャリア教育においては、生徒が早い段階から幅広く進路選択ができるよう様々な情報提供を今後も続けてほしい。</p> <p>(2) 心身健康で豊かな心</p> <p>ア 教育相談について、生徒と向き合うきめ細やかな対応が、保護者からの評価向上につながったのではないと思われる。今後も生徒、保護者との信頼関係を大切にしてほしい。</p> <p>イ ICTを授業で活用できる学習環境の整備が進んでおり、研究授業や現職教育の充実によって教科指導力の向上に取り組んでいる様子がうかがえる。読書については図書館利用数だけでなく、実際に読んだ本の量での評価も取り入れることを検討してはどうか。</p> <p>ウ ホームルーム活動や各種刊行物の発行、外部との交流会や学習会等を通じて生徒や保護者の人権意識の高揚に努めている。人権・同和教育における事案が発生した場合は、更に指導の充実と改善を図る機会であると捉え、教職員、生徒、保護者が一丸となって問題解決に取り組んでほしい。</p>	<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 生徒の自己実現</p> <p>ア 新学習指導要領に基づき、本校が育成したい生徒像をより明確に示し、それが実現される教育課程の構築を目指す。また、教員一人ひとりがカリキュラム・マネジメントの意識を持ち、その充実を図ることによって、より効果的な教育が提供できるよう努める。また、整備されたICT環境を活用した効果的で質の高い教育を推進する。</p> <p>イ 思考力・表現力・判断力等を問う入試問題の研究を含め、今後も一人一人の希望進路実現に向けて取組を継続していきたい。</p> <p>ウ 学年進行に応じたキャリア教育を系統的、計画的に実施する。進路別に資料を整理したうえで、希望者や保護者に対して、配布文書や説明会、ホームページによる情報発信等、様々な方法を用いて適切に情報提供を行いたい。</p> <p>(2) 心身健康で豊かな心</p> <p>ア 引き続き生徒と向き合い、保護者をはじめ生徒に関わる方々との連携を深め協力しながら支援していきたい。生徒が相談しやすい環境整備に努めるとともに、相談の機会や面談を充実させて生徒の言葉と心をしっかり受け止めていきたい。</p> <p>イ 図書館の貸出冊数と読書冊数を分けて考え、生徒の年間読書目標を10冊以上としている。図書館利用の活性化は、単に貸出数の増加のみでなく、図書が授業やホームルーム活動など、様々な教育活動の場で活用されることも目的としている。生徒の読書量把握も含め、図書館教育の充実に向けて、今後も地道に積極的な啓発活動を行っていきたい。</p> <p>ウ 次年度は毎月1回、「人権の日」を設けて人権や同和問題について考える機会としたい。更に教員間の連携を深め、意見交換の機会や公開授業等を活用して教職員の意識と指導力の向上につなげたい。今後も生徒一人ひとりの人権意識を養い、主体的に取り組む姿勢を育てるとともに、保護者への啓発活動にも力を注いでいきたい。</p>

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
<p>(3) 魅力ある特別活動</p> <p>ア 特別活動は、物事を成し遂げるためのあきらめない心や周囲に対する感謝の気持ちを養うことなど、人格の形成に関わる大切な活動である。多くの部活動が成果を上げており、今後も活躍を期待している。今年度、野球部の甲子園大会出場は、学校全体や地域を盛り立てるとともに、本校の活躍を全国にアピールする良い機会となった。</p> <p>イ 夏の地方祭「うわじま牛鬼まつり」は、年々、若者の参加が減少し、運営に苦慮している。生徒の安全を最優先に考えた上で、地域貢献や郷土愛を育む観点からも可能な範囲での参加をお願いしたい。ボランティア活動は、校外での活動だけでなく、校内で行える機会を増やしてはどうか。</p> <p>2 定時制について</p> <p>授業満足度や学校行事満足度、出席率、県定通総体参加率等、多くの目標をほぼ達成しており、落ち着いた学校運営が実践されている。前籍校で不登校傾向であった生徒も良い方向に向かっている様子が見えてくる。教職員が協力し生徒たちと真摯に向き合い、きめ細やかに接していることが良く理解でき、高く評価できる。</p> <p>3 学校運営について</p> <p>全てに完全を求め過ぎると学校全体が疲弊してしまう。数値のみにとらわれず、これからの社会で求められる資質を考え、将来、社会に貢献できる生徒の育成に今後も取り組んでほしい。また、生徒や保護者が「東高に入学して良かった」、「東高を卒業して良かった」と思える魅力ある学校づくりを継続してほしい。</p> <p>教職員が過度なストレスを抱えることなく、楽しく仕事ができるような雰囲気づくりも重要である。そのためには、気軽に教頭や校長にも意見が言える職場環境が大切である。</p>	<p>(3) 魅力ある特別活動</p> <p>ア 一昨年のサッカー部、昨年の野球部の活躍はその一端であるが、他の運動部や文化部も成果をあげており、四国大会や全国大会に出場している。今後も部活動の取組、活躍が学校や地域の活性化につながるよう更なる高みを目指して指導にあたりたい。</p> <p>イ 夏の地方祭には、個人的に参加している生徒も多いが、例年、ダンス部をはじめ、一部の部活動が参加し、協力している。行事の多い時期でもあるため可能な範囲での協力を呼びかけたい。また、校内のボランティア活動は、トイレククリーン活動を行っており、その他にも活動機会を増やしたい。今後も地域貢献やボランティア活動への参加を促すとともに啓発に努めたい。</p> <p>2 定時制について</p> <p>定時制全体として、特別活動・生徒指導・進路指導等において、きめ細かく生徒に寄り添うことができた。しかし、後期になって欠席の多い生徒が固定化してきており、個別支援に一層力を注ぎたい。また、来年度は、A評価の項目についてはハードルを上げ、B評価やC評価の項目については、A評価が達成できなかった要因を分析し、改善することで生徒の育成につなげていきたい。</p> <p>3 学校運営について</p> <p>学校評価の数値のみで一喜一憂することなく、これからの時代を他者と協働しながら創造的に生きていくために、生徒たちに身に付けさせたい資質・能力を吟味して教職員の共通理解のもと、生徒・保護者・地域から信頼される魅力ある学校づくりに取り組んでいきたい。そのために教職員がやりがいをもって職務に取り組めるように、定時退庁日の導入など、できるところから働き方改革を推進するとともに風通しの良い職場環境づくりに更に努めていきたい。</p>